

	委員 1	委員 2		運輸局
え ち ぜ ん 鉄 道 活 性 化 連 携 協 議 会	新計画がどのように変わり、調査がどう 寄与したかが知りたいが、資料上わから ない。現計画の結果や課題を踏まえてど のように計画に反映したのかを説明し て欲しい。 →目標はあまり変わっていないが、新幹 線の延伸やコンパクトプラスネットワ ークを見据えた取り組みを追加した。 計画策定のためにどの程度会議を開催 したか？ →作業部会 3 回、協議会は 1 回開催し た。 各市町の公共交通会議との関係はどう なっているか。担当者は同じでも別の計 画となってしまう恐れもあるので、留意 して欲しい。 →仕組みはできていないが、担当者は同 じなので、各市町の計画に反映するよう に努めたい。	立地適正化計画との連携について具体 的にどのように取り組んでいるか？ 各市の立地適正化計画の整合性は取っ ているか？ →福井市では立地適正化計画において 駅から 500m 以内を居住環境再構築区 域と定義して、住宅立地に補助を上乗せ している。永平寺町以外は計画策定済み であり、他市においても同様な組み を進めて欲しいと話しているが、沿線各 市の立地適正化計画の整合については 今後進めたい。 レンタサイクルの利用者数は横ばいで あったとのことだが、目標値に向けて増 やすような取り組みはしていたか？ →福チャリのポート数を増やす組み みをしているが、利用者は横ばいとなっ ている。レンタサイクルの乗り捨て化や キャッシュレス決済の導入など、使いや すい環境に取り組む。		(交通政策部) 立地適正化計画との関係 について、目標には都市機能の集約が意 識されているようであるが、具体的 には。 →福井駅周辺にアリーナを建設する話 があるため、進めていく。田原町駅近く の図書館の建て替え期間中に、駅におい て予約した図書の受け取りができるよ うな取り組みを行う。 (交通政策部) 福井市だけでなく、沿線 の市町においても同様の議論を進めて 欲しい。県の都市計画との関係も意識し て欲しい。 沿線市町の個別の公共交通計画との関 係性をどのように整合を取るか留意し て欲しい。

	委員 1	委員 2		運輸局
小浜市地域公共交通会議	計画策定は初めてか？ どうして策定することとしたか。 →法改正で努力義務となったことと、公共交通利用者数の減少による財政への影響、地域からの要望の増大などを踏まえた。 この計画で移動の課題は解決するか？ →計画を策定するだけではなく、PDCAを繰り返したい。基本理念について利用者目線でやって欲しいという委員の意見もある。今後、状況に応じて計画を見直すなどして進めたい。 利用者が少なく、使わない人が多い中で利用者目線の意味とは？ →便利さを感じてもらえる取り組みが必要と感じている。 乗らないという人に伝えることは困難。むしろ、需要の高い層に訴求するような施策が必要ではないか。検討することを宣言するのではなく、5 年間で少しずつ確実に実施すること、具体的に実施する体制などを書くべき。 小浜線へのアクセスをどう確保していくかという意識も持って欲しい。	市民アンケートの結果において、乗らないのでわからないという回答が多かったとのことだが、計画の方針においてそれに対応したものが見当たらない。マップの改善や情報発信をしても、受け取ってもらえていないのではないかと。無関心層に向けた施策が必要ではないか。先進事例も参考にして進めて欲しい。 →各地域に出向いて話をするなど、情報発信の強化を考えている。委員からも同様の提案があり、無料デーを設けるなども検討している。 総合計画や立地適正化計画、マスタープランの整合を図ったとのことだが、それらに対応した部分はどこか？ →立地適正化計画において公共交通の利便性向上、都市機能誘導区域へのアクセス向上を謳っている。バス等の各種助成制度の周知も合わせて実施したい。		(交通政策部) 小浜線との連携なども必要と思うが、嶺南地域の計画との関係性は？ →嶺南地域の計画において二次交通の充実が謳われているため、市の計画もそれを踏まえて作成している。 (交通政策部) 高齢者の運転への不安に対する対応として、免許返納者への割引など公共交通利用のインセンティブを与える施策は考えているか。 →1 万円分のタクシーチケットを渡している。今年度からはバスの 1 年分の無料券を交付している。

	委員 1	委員 2		運輸局
美 浜 町 地 域 公 共 交 通 会 議	目指す姿がよくわからない。町としても方向性を作るためにも計画が必要ではないか。 見直しをしたことはわかるが、それによって、住民の移動がどのように良くなったのかを記載して欲しい。 Google マップでの検索対応は町民にはあまり効果がない。町民に向けての取り組みも必要ではないか。住民の評判を聞きに行くことや、その中で意見を集めることをやるべき。会議の進め方についても検討して欲しい。 幹線の維持については危機意識を持っていたきたい。	ダイヤ改正はいつ行ったか？ →R2.11 に実施。 ダイヤ改正についてはアンケート結果を踏まえて行ったということだが、調査時期、対象者は？ →R2.9 に実施。利用者を対象に実施。 その上で、R4 にニーズ調査をすることだが、前回のアンケートとの違いは何か？ →次回の調査はコミバスの利用満足度調査と言うことで、利用者を対象に実施する。町民ニーズ調査は 65 歳以上の町民 1000 人にアンケート調査を行う。		(交通政策部) 福鉄バス若狭線と菅浜線の輸送量は把握しているか？若狭線・菅浜線とも 15 を切っている。幹線を外れるとフィーダー補助の対象から外れる。若狭線・菅浜線をどうするのかは町としても重要なことで、本気になって利用促進に取り組むことが必要。

	委員 1	委員 2		運輸局
若狭町地域公共交通会議	新平野駅のエリア追加の効果はどうだったか？ →小浜病院に直接行きたいという要望があり、アクセス向上のために追加したが、現状では利用が皆無である。運行していることを知らないという声もある。全戸配布でチラシを撒いて周知しているが、見てもらえていない。公民館等を通じて口頭での周知も必要と考えている。 要望があったにもかかわらず、利用がないというのは問題。そのような要望は無責任であり、単に要望を聞くだけでなく吟味するなど、やり方を考え直す必要がある。伝わっていないということは関心がないということ。意識の改革が必要。	コロナの影響で目標を達成していないのは理解できるが、外出を控えていた時期とそうでない時期があると思う。月別の分析などで変動を把握しているか？ デマンド型ならではの要因もあるかと思う。 →把握していない。 利用者の意見収集について何か実施したことはあるか？ →できていない。来年度は利用者、登録者・見登録者にアンケートを実施予定。		(交通政策部) 高齢者の集まる施設に特化したピラ配りなどは良い事例。 (交通政策部) 小浜線と町営バスの沿線以外の中高生はどのような移動手段を用いているか？ →スクールバスにより対応している。

	委員 1	委員 2		運輸局
福井県全体	地域間幹線系統の状況について、会議を開催するだけでなく、市町にきちんと伝わるように努めて欲しい。何かやっても、伝わっていないのでは意味がない。 地域間幹線系統は国・県が補助をしているために、市町が十分関与できていない。幹線分析シートについては、市町の記載を厳しくチェックして欲しい。 広域的な計画と、市町の計画の役割分担を明確にしなければ、齟齬が生じる恐れもある。そうならないようにしていただきたい。 計画で目標にしていることと、実際にやっていることが乖離している例が目立つ。	県と市町の関係、各市町と住民の関係に共通して、情報を受け手がどのように受けているのかが検証されていない印象なので気をつけていただきたい。 えちぜん鉄道のように、複数市町で情報共有する必要がある場合、自治体間のコミュニケーションを県が支えていただきたい。		(交通政策部) 嶺南の計画は県主導で作成しているが、その位置づけは今後どうなるか。駅から先の移動は市町の計画に任せるという考え方か。フィーダー補助も計画連動になることも関係する。 →広域幹線網の維持が最重要で、その先の具体的な部分は市町によって計画を策定して取り組むと考えている。 (交通政策部) 市町の施策では、個別に良い施策もある。やっていることをどうやって伝えるかという視点で取り組んで欲しい。コロナ禍もあり、計画の目標の妥当性を再度検証していただきたい。コロナ対策の PR も進めていただきたい。